

狐井稲荷古墳出土遺構保存展示業務仕様書

1 業務名

狐井稲荷古墳出土遺構保存展示業務

2 業務の目的

狐井稲荷古墳発掘調査現場で剥ぎ取り転写した実物の文化財である「狐井稲荷古墳盛土遺構土層断面」（以下、盛土遺構土層断面という）の保存処置及び展示品製作を行うとともに、博物館資料として展示及び活用することを目的に実施する。

3 履行期間

契約締結日から令和8年2月27日まで

4 搬出入場所

搬出入場所：香芝市文化財調査室（奈良県香芝市真美ヶ丘5丁目4）

※搬出入場所は、別途、指示する。

5 業務の内容

(1) 業務内容

既に剥ぎ取り転写した実物の文化財である盛土遺構土層断面を木製パネルに貼り付けて加工し、表面の土の剥落防止処置等の保存処置を行うとともに、脱落箇所の補填及び彩色等修正を行い、そのまま博物館資料として展示できるように展示品を製作する。

(2) 製作物の寸法

資料名称：「狐井稲荷古墳盛土遺構土層断面」（写真1参照）

寸法等：高さ 約1.6m×幅 約1.8m（仕上がり寸法の目安）

6 業務の詳細及び製作工程

(1) 製作工程の記録

受託者は、委託者と事前に協議を行うとともに、下記のとおり、製作工程ごとに写真撮影（デジタルカメラ）を行い、製作状況を電子メール等で写真を添付して委託者に報告するのをはじめ、学芸員が立ち合いを行うなど、双方で確認・協議しながら業務を行うものとする。また、進捗状況を作業日報等の記録に留めるものとする。

(2) 製作工程

ア 展示用パネルの製作

展示用製作物として、完成寸法に合わせて片面フラッシュ構造の木製パネルを製作する。パネルは、最後に設置する枠の厚みを差し引いた寸法とし、パネルの寸法は、加工時に委託者と協議の上、決定する。

イ 盛土遺構土層断面の加工

盛土遺構土層断面をパネルに貼る際は、不要な余剰の土層部分を切断する。

ウ 盛土遺構土層断面の展示用パネルへの取り付け

盛土遺構土層断面を予め加工した木製パネルにエポキシ接着剤で接着する。さらに、経年変化での接着強度が弱くなった場合を想定し、盛土遺構土層断面の変形や収縮等を考慮して、打ち込み箇所を十分に観察した上で、パネルから脱落しないようにタッカー等でパネルと盛土遺構土層断面を数十か所程度固定する。

エ 盛土遺構土層断面の補填及び修正

土層断面の転写の際に貼りついた土器や埴輪をはじめ、石や土塊は、考古学的に重要な意味を持つ遺物であるので、脱落しないように、元の位置に接着剤や金具等でパネルに直接固定する。また、転写の際に土が脱落して裏面の布が露呈している箇所には余剰の土等を用いて盛土遺構土層断面の土層の補填及び彩色等の修正作業を行う。その際、土層によって土質や色彩が異なるため、補填部分を本来の剥ぎ取り箇所の土層と同質及び同色にせずに、補填した部分が復元箇所として認識できるように処置を行う。

オ 盛土遺構土層断面の仕上げ処理

接着の際に打ち込んだタッカー等の留め付け金具の露出部は、土に接着剤やエポキシ系樹脂等で接着して覆い隠すなど展示品として、ふさわしい処置を行う。

カ 展示用パネルに取り付けた盛土遺構土層断面の保存処理

盛土遺構土層断面の土の剥落を防止するため、イソシアネート系合成樹脂（サンコール）を表面に塗布して硬化処理を行う。塗布に際しては、適度の色調になるように土層の色調変化に注意しながら数回に分けて作業を行う。

キ 展示用パネルの加工

保存処理を行った盛土遺構土層断面を展示用パネルとして、移動及び保管し易いように、指示する寸法に切断する。切断の際に脱落した箇所の補填や修正等を行い、展示用品パネルとしてふさわしいように最終仕上げ処置を行う。

ク 展示用パネルの外枠の取り付け

展示用パネルの外枠として、木枠をパネルの周囲に取り付け、裏面には脱落しないように接合部4か所を金具で固定するとともに、展示の際の吊り上げ用の金具を取り付ける。

7 成果品

完成後、委託者が受託者の作業場にて成果品の検査を行い、検査に合格した成果品を履行期限内に指示する場所に納品するものとする。

なお、成果品は、以下のとおりとする。

- (1) 盛土遺構土層断面展示品の完成品
- (2) 製作過程の記録写真

8 業務にあたっての留意事項

- (1) 受託者は、以下の条件を満たす熟練の技術者とし、委託者との連絡・調整を密に行い、仕様書に基づき効果的に業務を進めること。

ア 過去に国又は地方公共団体で、発掘調査現場で剥ぎ取り転写した遺構のパネルへの取り付け等の保存処理及び展示用パネルの製作等の業務を受注した実績を有すること。

- (2) 受託者は、対象物が実物の文化財（出土遺構）であることを十分に認識し、毀損しないように最大限の注意を払い、業務にあたること。また、作業時間外は、紛失及び滅失をはじめ、その他の被害が及ばないように、受託者の責任において、安全な場所に保管すること。万が一、製作中に実物を毀損した場合は、速やかに委託者に報告するとともに、委託者及び受託者が双方協議のもと、適切に事後処理を行うこと。なお、この場合、原状復旧に係る費用は受託者が負うものとする。
- (3) 受託者は、盛土遺構土層断面の搬入・搬出に伴う輸送時は、通常のアート作品梱包輸送と同様に、毀損しないように入念に梱包を行い、屋根のある車両の荷台に固定して輸送すること。
- (4) 仕様等の内容に変更が生じた場合や作業中に疑義が生じた場合は、その都度、受託者は委託者の確認及び指示を受けること。
- (5) 納品後、3年以内にパネルの劣化や変形等の変質をはじめ、パネルから土の剥落等が生じた際は、適時、修理を行うこと。
- (6) 仕様書に定めのない事項については、双方協議の上、適切に行うものとする。



写真1 狐井稻荷古墳盛土遺構土層断面の現状

※委託業務実施前の現状。既に剥ぎ取り済みの盛土遺構土層断面を木製パネルに取り付けて加工し、土層断面の土が落下しないように薬剤を塗布して保存処置を施すとともに、実物の文化財として、博物館での展示品として展示できるように展示用パネルを製作する。